

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	一般社団法人 ポノポノプレイス 代表理事 吹野 加代
事業名	双星放課後カフェ
事業所管課	総合政策局 園田地域振興センター 園田地域課 教育委員会事務局 学校教育部 幼稚園・高校企画推進担当
事業内容	(実施期間、実施場所の実績についても明記のこと) 尼崎双星高等学校内で、気軽に立ち寄れる「居場所」をカフェ形式で提供し、学校でもない家庭でもない、「第三の居場所」において、様々な大人との交流を通じて、生徒達の悩みを共有し解決などを図っていく。 令和4年度は、延べ22回実施し、参加者は延べ1045名(令和5年2月17日現在)

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A(よくできた)、B(まあまあできた)、C(あまりできなかった)、D(まったくできなかった)
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画(準備)段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他(契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問)		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	「カフェを知っている」と答えた生徒の数
	測定方法	全生徒を対象にアンケート
	結果	173人（アンケート回答者173人中、100%）
2	評価指標	「参加して良かった」と答えた生徒の数
	測定方法	全生徒を対象にアンケート
	結果	96人（アンケート回答者のうち参加した生徒97人中、99%）

3 総合評価

協働側面の評価
<p><u>2(1)の協議内容について記載する。</u></p> <p>1 事業計画（準備）段階について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施する前に学校を含め、団体と所管課で実施目的や実施体制、課題や目標について話し合い、相手の立場や組織、ルール等を共有し理解し合いながら、「事業計画（準備）段階」の各項目を意識して取り組むことができた。 ・年度当初に関係者で学校の行事予定を踏まえ開催可能日を共有できたことで、今年度は安定して開催することができた。 <p>2 事業実施段階について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体と学校が直接開催日程を調整することで、学校活動の様子を聞く事ができ、生徒達とのコミュニケーションも取りやすくなった。 ・学期毎に学校と団体・所管課で振り返りの場を設け、率直な意見交換を行い、生徒達のカフェでの様子や学校活動の様子を共有することができた。 ・開催中に気になる事案があった場合も速やかに学校と共有し対処することができた。
事業効果の評価
<p><u>2(2)の結果を踏まえて、達成できたこと、達成できなかったこととその原因、対策等について記載する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の協力のもと、初めて全生徒を対象にアンケートを実施する事ができた。（1月末頃） ・コロナ禍を踏まえて実施方法を学年別で月3回実施する事で、カフェの知名度も上がり、カフェに目的を持って来ている生徒も増え認知度も上がった。 ・評価指標2について、参加した生徒のうち1人を除き「参加して良かった」と回答があり、理由として友達や地域の大人たちと交流できた事が多く、事業目的である「交流の場」を提供することができた。
総評
<p><u>協働して事業を実施したことによって、どのような効果があったのかという視点を含め、上記を踏まえて総合的に評価を行う。今後に向けた課題も記載する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の協力のもと、全生徒を対象にアンケートを実施し、生徒達の意見を聞いたことは今後の事業運営において、大変貴重な意見となった。 ・アンケート結果で見えた課題については、学校・所管課と話し合い、よりよい手法で実施して

いきたい。

・当初緊張感を持ってカフェに入ってきた生徒が、少しずつスタッフとコミュニケーションが取れるようになり、手を振りながら入ってきてくれる生徒やスタッフに会いに来てくれる生徒も増え、学校生活では見る事ができない生徒達のリラックスした表情をカフェ内で見せるなど、生徒達の変化もみられた。

・ユース交流センターの職員（SSW）の協力も得られ、悩みを抱えている生徒をユース交流センターにつなぎ、ユースで開催するイベントに積極的に参加するなど地域に興味を持つ生徒の姿もみられ、生徒を孤立させず支援につなげることができた。

・今まで積み重ねてきた関係を活かし来年度以降も校内で居場所作りを実施し、生徒達の主体性を育めるような場も提供をしていきたい。

（令和3年度実施結果報告に対する審査会委員意見）

・成果指標は参加者へのアンケートが中心となっているが、この取組によって、参加していない生徒を含む学校全体や、地域がどう変化しているかなど、参加者以外の変化にも注目してほしい。

・コロナ禍となって数年が経つ中、コロナに左右されない実施方法についても検討してほしい。

・令和4年度に向けても採択となったが、実施体制など、審査結果において評点が低かった項目について強化を図るなど、進化を続けてほしい。

（令和4年度実施結果報告に対する審査会委員意見）

・子どもたちへのアンケートだけでなく、先生サイドが子どもたちの変化をカフェを通して、評価、意義を見出す部分も必要である。

・事業を通して、（来ていない子どもたちも含め）子どもたちや学校全体がどう変わったのか、カフェがあることで地域がどう変化したのか、保護者から見てどうだったのか等、外から見た事業全体の客観的な評価を数字で出すことも大事である。

・アウトカムをどう考えるのか、所管課とともに考えながら、事業に取り組んでもらいたい。

・数字では語れない部分もあるので、併せて不登校や引きこもり傾向の子どもにアプローチしたケースの蓄積をお願いしたい。

・ゆくゆくは「チーム学校」を目指して学校との連携を進めてもらいたい。

・参加しない生徒や他校の生徒にも有益になるような、事業を通じた成果の発信やモデル化に着手してもらいたい。

4 収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）		内容及び算出根拠	
	予算額	決算額		
市補助金	300,000	300,000		
自主財源	281,000	45,132		
収入合計	581,000	345,132		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
		計	うち市補助金	
需用費	401,000	249,132	240,000	消耗品 156,000円 消耗品（カフェ材料費 93,132円）
報償費	72,000	0	0	
人件費	108,000	96,000	60,000	@1,000円×96名（延べ）
支出合計	581,000	345,132	300,000	補助額に対する人件費割合： 20%（委託事業は記入不要）

※支出したことがわかる資料（領収書等）を添付してください

※受益者負担のある収入については、根拠を明記するか、資料を添付してください

※予算額を当初から変更した場合は、変更後の金額を記載してください

※人件費を支出した場合は、次の事項に留意してください

- (1) 算出根拠を明記する（原則として、「時間あたりの金額（任意）×時間数」で算出する
- (2) 時間あたりの金額は、最低賃金以上の額で、一般に許容される程度の額を上限とする
- (3) 時間数は、この事業の実施に要する分に限る
- (4) 人件費は、原則として補助額の2割以内の額とする
- (5) 上記(4)について、決算時点で次の条件を満たす場合は、この限りではない
 - ア 予定している実施内容と同等以上に実施量があると認められ、かつ、
 - イ 人件費を除く経費が当初（あるいは変更後）の予算未満であるとき

• この報告書は、事業所管課から、企画管理課を通じて制度所管課に提出すること